



2019年 露地・雨よけぶどう病害虫防除暦

J A 中野市営農センター
J A 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
／	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	地域散布 展着剤 ラビキラー乳剤 20mℓ 500mℓ	発芽前 (休眠期)	2回	300	ブドウトラミキリ (ブドウカガバ)	①トラカミキリ、ブドウスカシバの発生がある場合は散布する。 ② 発芽後の散布は薬害が発生するので、必ず発芽前に散布する。 ③ラビキラー乳剤は訪花昆虫に影響があるので、4月上旬散布を厳守。 ④晩腐病多発園はベンレート水和剤200倍(休眠期、1回)を加用する
／	4月中下旬 (発芽直前)	①アビオン-E(展着剤) パスポートフロアブル 100mℓ 400mℓ	休眠期	1回	手散布 300	晩腐病 黒とう病	①晩腐病発生園は、必ず手散布で死角の無いよう散布する。 ② 晩腐病発生園は、パスポートフロアブルに代えてベンレート水和剤200倍(休眠期、1回)を使用する。ただし、4月上旬散布した方は散布出来ない ので注意する。
／	5月上旬 (発芽直後)	特別散布 展着剤 モスピラン顆粒水溶剤 10mℓ 50g	14日前	3回	300	クワコカイガラムシ (カスカムシ類)	① 訪花昆虫対策として早朝散布・下草刈りを実施厳守する。併せて散布適期を厳守する。 ②シャインマスカット、ロザリオピアンコ混植園は必ず散布する。 ③ カスカムシ発生園はモスピランに代えてスミチオン水和剤1,000倍(30日前まで、2回)を散布する。
／	展葉3・4枚	特別散布 展着剤 キノンドーフロアブル 10mℓ 166mℓ	45日前	4回	300	べと病 枝膨病 黒とう病	①連続した降雨が予想される場合は、特別散布を実施する。 ②キノンドーフロアブルは薬液の汚れが目立つため、ハウスや住宅が隣接する園地は散布時の飛散に注意する。 ③キノンドーフロアブルの登録内容に注意する(45日前、4回(開花後は1回)) ④ツマゲロアオカスカムシやツヤケシメゾウムシ等が心配な園はスミチオン水和剤401,000倍(30日前、2回)を加用散布する
／	5月中旬 展葉6枚頃	【今回の防除以降は10日間隔を基本とする】 ②展着剤 オーソサイド水和剤80 10mℓ 125g	30日前	2回	300	晩腐病 べと病 黒とう病 灰色かび 褐斑病	① オーソサイド水和剤80とアリエッティC水和剤の成分とは同一成分のため使用回数に注意する(合計2回まで) ②カイガラムシ類・カスカムシ類、(ツヤケシメゾウムシ)発生園はコルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
／	5月下旬 展葉9枚頃	③展着剤 ドーシャスフロアブル 10mℓ 50mℓ	60日前	3回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	
／	5月下旬 満開予定日 14日前	種なしぶどう必須散布 展着剤 ストマイ液剤20 10mℓ 100mℓ	満開予定日の 14日前～ 開花始期	1回	300	無種子化	① 種なしぶどう栽培園は必ず散布する(散布が遅れないよう注意) ②花穂にたつぷりと当たるように散布する ③ 有核ぶどうには、絶対飛散しないよう注意する
／	6月上旬 展葉11枚頃	展着剤 フラスター液剤 10mℓ 100mℓ	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1回	300	着粒増加 新梢伸長抑制	①樹勢の強い園、前年度花振り発生園は散布する ②フラスター液剤の濃度が高いと着粒密度が高くなるので注意する。 ③ 有核巨峰は展着剤に代えてアプローチBI 500倍を使用する。
／	6月上旬 開花3日前	④展着剤 フルーツセイバー オーソサイド水和剤80 スプラサイド水和剤 10mℓ 66mℓ 125g 66g	7日前 30日前 14日前	3回 2回 2回	400	晩腐病 べと病	①オーソサイド水和剤80とアリエッティC水和剤の成分は同一成分のため使用回数に注意する。(合計2回まで)
／	前回から 10日以内 (落花直後)	⑤コテツフロアブル スイッチ顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 50mℓ 33g 100g	60日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	うどんこ病 灰色かび病 褐斑病	① ジマンダイセン・ペンコゼブは同一成分のため使用回数に注意する。(合計2回まで) ②昨年べと病が多発した園はゾーベックエニケード5,000倍(14日前、2回)を加用する。
／	前回から 10日以内 (落花12日)	⑥フェニックスフロアブル アドマイヤー顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 25mℓ 10g 100g	14日前 21日前 45日前	2回 2回 2回	400	黒とう病 チャノキアザミウマ (スリップス類) ワタニヒメヨコバイ (ナミハダニ類) (クビアカスカシバ)	①スリップス発生園は主軸まで薬液が到達するようたつぷり散布する ②農薬汚れ・果粉溶脱の心配があるため、散布時期を徹底する ③ マンゼブ成分を含む農薬の使用回数に注意する(上段注意事項参照) ④主幹害虫発生園は主幹・主枝にたつぷり散布する ⑤薬液汚れが心配な場合はジマンダイセン水和剤に代えてペンコゼブフロアブル1,000倍(60日前、2回)を使用する。
／	前回から 10日以内 (落花20日)	⑦ザンプロDMフロアブル アミスター10フロアブル ディアナWDG 50mℓ 100mℓ 10g	30日前 30日前 前日	2回 3回 2回	400		①散布の際は果粉溶脱に注意し散布する。
／	前回から 10日以内 (落花30日)	特別散布 ライメイフロアブル オンリーワンフロアブル アーデントフロアブル 25mℓ 50mℓ 50mℓ	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	べと病・さび病 褐斑病・晩腐病 黒とう病 アザミウマ類 ハダニ類	① 袋かけが間に合わない園は必ず散布する ②袋かけ前の散布のため、果粉溶脱に注意しながら散布する
／	7月中旬 (袋掛直後)	⑧ムッシュボルドーDF アルバリン顆粒水溶剤 K.Kステッカー(展着剤) 200g 50g 33mℓ	— 前日 —	— 3回 —	400	べと病 さび病 チャノキアザミウマ ブドウトラミキリ カムシ類 コカイガラムシ類	①べと病発生園はムッシュボルドーに代えてイトフインフロアブル1,000倍(7日前、4回)を使用する。 ② ハダニ類(サビダニ)の発生園は、ピラニカ水和剤2,000倍(30日前、1回)を加用する。 ③クビアカスカシバ発生園はバダンスG水溶剤1,500倍(21日前、5回)を加用する。 ④K.Kステッカーに代えてアビオン-E 1,000倍を使用してもよい。
／	7月下旬 (前回から 10日以内)	⑨ICボルドー66D テルスター水和剤 2.5kg 100g	— 14日前	— 1回	400	べと病 さび病 晩腐病 チャノキアザミウマ	①ICボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー、コサイド3000 2,000倍、ムッシュボルドーDF500倍を使用してもよい。 (薬害の心配な園はクレフノン加用) ②ボルドー液は、桃・ブドウ・梨等に薬害が発生するので、使用する場合は隣接園に注意する。 ③べと病発生園は、ICボルドーに代えて下記薬剤を使用する。 ・レーバスフロアブル2,000倍(7日前、3回) ④(チャノキアザミウマ)・ハダニ発生園はアーデントフロアブル2,000倍(前日、4回)を加用する。(散布直前混用) ⑤コガネムシ類・(アザミウマ)発生園はイカズチWDG 1,500倍(7日前、5回)を加用する。(散布直前混用)
／	8月上中旬 (前回から 10日以内)	⑩ICボルドー66D 2.5kg	—	—	400	べと病 さび病 晩腐病	
／	8月中下旬 (前回から 10日以内)	⑪ICボルドー66D 2.5kg	—	—	400		
／	収穫終了後	晩腐病・べと病多発園 展着剤 ICボルドー66D 10mℓ 2.5kg	—	—	400		①病原菌は落葉内で越冬するので、集めて土中に埋めるなどの処理をする。 ②根頭がんしゅ病の発生防止のため、ワラ巻きによる防寒を実施する。 ③晩腐病の耕種的防除として、二番成り・巻きひげ・果梗痕をきれいに取り除き、中耕を実施する。あわせて園内整備をし栽培環境を整える。

当防除暦の複製・コピーの禁止